第５回 埋設処分業務・評価委員会 議事録

１．日時　　平成23年5月30日（月）15：00～17：00

２．場所　　日本酒造会館　6階会議室（酒造会館ビル6階）

３．出席者（敬称略）
（評価委員）大西（委員長）、片桐、佐藤、辰巳、田辺
（機構）大澤、真鍋、木原、原、吉岡、山口、坂本

４．議題
（1）挨拶
（2）第４回埋設処分業務・評価委員会 議事録等確認
（3）平成 22 年度 埋設処分業務の実績について
（4）その他

５．配布資料
資料５－１　第４回埋設処分業務・評価委員会議事録（案）
資料５－２「平成 23 年度埋設処分業務に関する計画（案）」に対する委員会総括と措置対応（案）
資料５－３　平成 22 年度 埋設処分業務の実績について
参考５－１　平成 23 年度 埋設処分業務に関する計画

６．議事概要
（1）埋設事業推進センター長挨拶
まず、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りし、また被害を受けられた被災地の皆様に心からお見舞い申し上げたい。
平成 22 年度は、「埋設処分業務の実施に関する計画」（実施計画）に基づいて業務を進めてきたところであり、23年度中に実施計画の変更認可を得る予定である。
今回は、平成 22 年度の業務実績の報告内容をもとに、当センターが計画通りに業務を遂行できたかどうか評価をお願いする。また、報告内容に対して頂戴したご意見は今後の埋設処分業務に反映していきたいと考えている。

（2）第４回埋設処分業務・評価委員会 議事録案等確認
資料５－１に基づき、事務局より前回議事録案について説明し、承認が得られた。

（3）平成 22 年度　埋設処分業務の実績について
資料 5-3 に基づき、事務局より平成 22 年度の埋設処分業務の実績について説明。

主な質疑応答は以下の通り。

【委員】 平成 22 年度の業務のうち、予算額に対して実績額が多くなったものはあるか。

【機構】 一部について、当初予定していた仕様に変更があり、費用が増加したものもあるが、全体としては平成 22 年度予算の範囲内で実施している。

【委員】 資料 5-3 の p.5 について陸上輸送はトレンチ分のみを想定しているのか。また、輸送容器と廃棄体は同じ容器を想定しているのか。

【機構】 ピット分・トレンチ分両方とも船舶輸送と陸上輸送を想定している。陸上輸送は、輸送コスト等の観点から少量の発生事業者からの受入を想定しており、資料 5-3 に示しているように、廃棄体容器で輸送されてくるものとして設定した。

【委員】 今回の地震は立地基準等の検討にどのような影響があるのか。

【機構】 基準については、まずは現行の国の指針で対応可能かの検討を行う必要があるものと考えている。国が行う指針の見直しに長期間要するのであれば、その状況を見極めながら対応していく。手順に関しても、今般の原子力を取り巻く状況を見つつ、適切な方法を検討する必要があると考える。本委員会でのご意見を「埋設施設設置に関する技術専門委員会」での議論にも活用させて頂きたい。

【委員】 シーベルトという単位を説明するのに以前は苦労していたが、今回の原発事故によって認識していただけるようになったので、広報素材の中でも具体的な数値を挙げて説明することが有効と思われる。

【機構】「自然界と比較して」などとわかりやすい表現の仕方をどうすべきか苦労してきたところ。ご指摘のとおり、事故後は定量的な表現については理解が進んできたと考えられるので、可能になってきたと考えている。今後、広報素材において、数値を明示する等、さらに有効な方法を検討していく。

【委員】 資料 5-3 の p.13 では、めやす線量 10 μSv/y に対して、ピーク値は 10^{-2}～10^{-3} μSv/y 程度となっている。このような分布についてもどのように説明していくかが重要と考える。また、これは特定の地点の値か。

【機構】 目安に対して十分余裕があるといった説明をしていく必要があることや確率論的な扱いの示し方について、今後十分に議論していきたい。なお、計算結果は、特定の場所ではなく、我が国における自然環境条件について評価パラメーターを文献調査した結果に基づく試算結果である。

【委員】 どのような地点でも概ね安全を担保できるような値を用いていると考えてよいか。
【機構】 そのように考えている。

【委員】 処分がわが国にとっても必要であるといったことが、今回の事故を通して広く理解を得られるきっかけになるかもしれないので、この点をしっかり自治体に対して説明していくと良いのではないか。
【機構】 今後の立地活動について検討するなかで、今回いただいたご意見を参考にしていきたい。

【委員】 廃棄物の発生事業者は、この事業に対してどのように考えているのか。
【機構】 出来るだけ早い事業開始を望んでいる。発生事業者の中には既に放射性物質の取扱いをやめ、保管のみを行っているところも多い。そういった事業者が、自ら処理や中間貯蔵を行う事が難しい現状にある。

【委員】 輸送に関してはどのような容器の形態を想定しているのか。
【機構】 専用の輸送容器に、ドラム缶であれば８本収めて輸送することを考えている。

【委員】 今回作成した埋設施設の展示模型について、使用の予定はあるのか。
【機構】 直近では、機構が毎年行っている成果報告会（原子力機構報告会）での展示を考えている。

【委員】 今回の事故で研究施設等廃棄物に関する社会の意識も大きく変わったと考えられるので、社会調査の実施について考えてはどうか。
【機構】 広報素材作成のため、調査を実施しており、その結果については成果物として取りまとめていく。

【委員】 積立金の運用を行っているのか。
【機構】 行っているが、独立行政法人としての制度上、我々の運用先は限られている。

【委員】 資金管理システムについて、このシステムは完成し運用に入っているという認識でよいか。
【機構】 現状、システムとして完成し、運用している。今後資金計画等の変更により、見直しは行っていく。
【委員】 システムが適切に動作している確認をどのように行ったのか。第三者による確

認を行ってはどうか。

【機構】 当該システムは、埋設処分業務勘定において繰入金額の計算等に用いる管理会計のために製作したものであり、機構で行う財務会計決算と管理会計決算のキャッシュ残高が一致することを確認している。

第三者による確認については、その内容や方法等を検討する。

（４）平成 22 年度 埋設処分業務の評価

「平成 22 年度の埋設処分業務は計画どおり進んでいる」と総括された。

（５）その他

次回委員会の開催については、事務局より連絡する。

以上